



人文学の学校KUNILABO

源氏物語を読む

日本文学のなかで最も有名な作品のひとつである『源氏物語』ですが、実際に原文で読んだことのある人は多くないでしょう。

本講座では、セミ形式でいくつかの注釈書を比較し参考にしながら、『源氏物語』を原文で少しずつ読んでいきます。主人公であった光源氏が亡くなった後の、宇治を舞台とする宇治十帖から読んでいきますが、適宜それまでの部分についても説明します。解釈の分かれる部分もありますが、自分なりの答えを見つけ、口語訳することを目標にします。よく分からないから難しいのではなく、よく分からない部分が面白さなのです。ぜひ自分なりの読みを見つけてみてください。

講師：西原志保（にしはら しほ）

人間文化研究機構国立国語研究所研究員
専門は『源氏物語』を中心とした日本文学。
最新著書に『『源氏物語』女三の宮の〈内面〉』（新典社新書）、2017年。

日時

第1・第3金曜日（6月のみ1回第5金曜）

4/6, 4/20, 5/18, 6/1, 6/15, 6/29, 7/6, 7/20
19:00~20:30

場所

リトマス（国立駅南口より徒歩3分）

料金

一般12,000円・学生6,000円（全8回）

お申込みはホームページより受け付けています。
www.kuniken.org



お問い合わせ

NPO法人国立人文研究所

Email: kunilabo@kuniken.org

Tel: 050-5276-2662

橘の小島の色は変わらじを
この浮舟ぞ行方知られぬ

